

はぎのだい

学校だより臨時号



平成29年10月24日(火)

津幡町立菟野台小学校 校長 合田 洋子

学校評価の結果から

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。

さて、前期学校評価の結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。この評価は、私たち教職員の教育活動を振り返り、今後更なる改善に向けて取り組むことを大きなねらいとしております。全職員で共通理解のうえ、9月から改善に向けて取り組んでいます。今後とも、保護者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

★ 平成29年度 学校評価 中間評価結果より

(22項目のうち判定がAの項目は除きました)

	具体的取組	達成度	判定	9月からの方針・方策
学力向上と指導力向上	①基礎基本の定着 (学校統一漢字・計算テスト)	教職員 89% 児童 92%	B	計算テストは、児童が苦手とする単位換算なども取り入れ、継続して取り組んでいく。 漢字テストについては、学年に応じたテスト練習の仕方を工夫し、授業においても指導の場を確保して取り組む。
	③表現する力の育成 (根拠や筋道を意識して考えを表出している)	教職員 90% 児童 85%	B	算数科を中心に、1時間の中でできるだけ全員に話をさせ、話すことに慣れる取組も行っていく。また話型の提示等、どう話してよいか分からない児童への支援も工夫していく。
	④家庭学習の充実と習慣化 (学年×10分の定着)	教職員 78% 児童 82% 保護者 74%	C	自学ノートを使った家庭学習について、各学年や全校に向けて具体例を示すことができたので、後期も継続して指導していく。 児童に家庭学習の時間を記入させ、児童に時間の使い方について考えさせるような取組を、今後検討していく。
	⑤学習規律の定着	教職員 73% 児童 90%	B	保健安全部とタイアップして授業中の姿勢をよくすることに取り組むなど、児童の自覚を促す働きかけを続けていく。
豊かな心の育成	①その場に応じた正しい言葉づかい、思いやる言葉づかい	教職員 100% 児童 73% 保護者 81%	B	どんな言葉づかいが課題かを明確にし、その言葉を減らしていく取組を学校全体で進める。それを家庭へも積極的に発信し協力を得る。
	②いじめのない温かい学級づくり	教職員 100% 児童 85%	B	人間関係づくり週間を設定して、「人間関係づくり年間指導計画」を活用しながら、エンカウンターやアサーショントレーニングなどを行い、温かい学級づくりを意識させるようにする。
	⑥読書の習慣化 (集中して読書に取り組める環境づくりと年間の個人目標の設定)	教職員 100% 児童 80%	B	個人差が大きい。読書内容という点で課題が残る。朝学習を活用した読書の取組を充実させていく。
体力向上	①早寝・早起き・朝ごはんの定着	教職員 89% 児童 87% 保護者 82%	C	9月、児童の意識向上を図る健康パワーアップ大作戦を実施し、意欲や達成感を高めるようにする。また、お知らせ等を通じて保護者にも啓発し、家庭との連携を図る。

判定がAの項目は、

【学力向上と指導力向上】

- ・②基礎基本の定着（朝学習・パワーアップタイム等）
- ・⑥学校研究の重点に沿った授業実践
- ・⑦校内研究会の活性化
- ・⑧情報機器を活用した授業実践

【豊かな心の教育と生徒指導の充実】

- ・③主体的に取り組む特別活動
- ・④道徳教育の充実
- ・⑤個別の指導計画や教育支援計画の作成と有効活用

【体力向上と危機管理の育成】

- ・②体力・運動能力調査の実施・分析・取組
- ・③危機予測能力・危機回避能力の育成

【学校組織力の向上】

- ・①校務分掌の課題の明確化と改善策の実施
- ・②学びのロードマップの計画的実践

【開かれた学校づくりの推進と家庭地域との連携】

- ・①積極的な情報公開
- ・②地域と連携した伝統文化の継承
- ・③保小、小中の連携の推進

以上14項目でした。

＜学校評議員会(8月28日)での学校評価に対するご意見＞

- ・「学校は楽しい」「先生はほめてくれる」の項目にD評価の児童がいるが、その対応はどうしているか。

→担任がまずその子に寄り添い話を聞くことで、原因等をはっきりさせ、改善に向け共通理解し、全教職員で対応していく。

- ・昔は学校から帰るとすぐ遊びに行きいろいろな体験ができたが、今は習い事やいっしょに遊ぶ子もいないので、自然にゲームに親しむことになっているようだ。

→ゲームについて昨年度の調査から本校児童が町内でとても高い依存率となっている。そのため今年度は、「メディア」との付き合い方について親子で考える企画（すこやか集会）を予定している。

- ・家庭学習（自学ノート）に、どんな内容をさせるとよいのか迷うことがある。漢字・計算に内容が偏りやすいので、指導してほしい。

→学校では内容について具体的に指導したり、自学ノートを展示・紹介したりし、イメージ化しやすいようにしている。また、がんばったことを褒め、意欲につなげるよう共通理解をしている。少しずつ質の高い学習をめざしていけるとよい。

学校評議員の皆様からは、学校の取り組みに対して肯定的なご意見を多くいただきました。また、前期の学校評価については、概ね妥当な評価であり、評価が低かったものについては全職員で改善し、後期もしっかりと取り組んでほしい。と述べられました。

裏面：学力調査結果

平成 29 年度の学力調査の結果を受けて

今年度も4月に、全国の6年生を対象にした全国学力・学習状況調査（国語・算数）と4年生と6年生を対象にした石川県基礎学力調査（4年生：国語・算数、6年生：社会・理科）を行いました。また、町独自に、5年生を対象とした学力調査（国語・算数・理科）も行いました。

本校児童の調査結果は、以下のとおりでした。

調査結果を県の平均と比べたものを ⇨ で表しました。

↑ 5%以上上回る ↗ 2～5%上回る → 平均と同程度 ↘ 2～5%下回る ↓ 5%以上下回る

【6年生】

教科	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	社 会	理 科
萩野台小の平均						
県の平均	79.0	64.0	85.0	53.0	69.9	59.1

6年生のA問題は基礎的な内容の問題、B問題は思考力や活用する力をみる内容の問題です。

【5年生】 町独自の調査のため全国の平均との比較です。

教科	国語	算数	理科
萩野台小の平均			
全国の平均	76.2	72.5	67.3

【4年生】

教科	国語	算数
萩野台小の平均		
県の平均	72.3	73.8

- ・4年生は県や町の平均を上回る教科がありませんでした。
- ・5年生は国語・算数の教科が全国の平均を上回っていますが、理科が大きく下回っています。
- ・6年生は、算数の基礎的な問題は平均と同程度でしたが、他の教科は県の平均を下回っています。

★学力調査の分析

◎は優れていたところ △は弱かったところ

6年生

教科	分析結果
国語	◎漢字の読み書きや場面を把握する力は、概ね良好である。 △問題を解釈し、わけをまとめて書く力は、十分ではない。
算数	◎基本的な計算の力は、概ね良好である。 △表と関連付けて表す問題や理由を説明する力は、十分ではない。

社 会	◎地図帳を活用して海洋名や日本の領土について答えることは、しっかり理解している。 △複数の資料を基に考察したり説明したりする力は弱い。
理 科	◎月の動き方や、質量保存の問題について概ね理解している。 △並列つなぎを書くことや、気温の変化から午後の天気を推測することなど理科用語を使って説明する力が弱い。

5年生

教 科	分 析 結 果
国 語	◎聞き取った内容からメモを作成すること、登場人物の感情を読み取ることとは良好である。 △修飾語の役割や説明文を読み取る力が弱い。
算 数	◎小数のたし算や四捨五入で答える問題など良好である。 △単位換算やおよその面積の量感が弱い。説明を書く力が十分でない。
理 科	◎生き物の冬の様子についてしっかり理解している。 △光電池に光がよく当たる方位を問う問題や洗濯物を乾かすと重さがる現象を説明する力が弱い。

4年生

教 科	分 析 結 果
国 語	◎漢字を書くこと、読むことは概ね良好である。 △国語辞典の使い方や文章を条件に合わせて書く力が弱い。
算 数	◎基本的な計算の力は、概ね良好である。 △きまりを読み取り、式に表したり、言葉で説明したりする力が、弱い。

〔今後の取り組み〕

〔1〕授業中での取り組み

- 国語・基となる文章を生かして書く活動を取り入れる。また、記述の問題では条件に合わせて書くことを指導する。書き抜きは正確に行う。
- ・心情や場面の様子をとらえる学習では、根拠を明確に説明できるようにする。
 - ・修飾語の役割を再確認する。また、文節ごとに区切り、文の意味が通るかどうか確かめる。
- 算数・立式の理由や自分の考えを書いたり説明したりする活動を多く取り入れる。
- ・日頃から何を問われているのかを考えさせ、明確な答え方を指導する。
 - ・量感を身につけられるような活動を授業で取り入れる。
- 社会・複数の資料から必要な情報を読み取る時間を設けたり、社会用語を使ってまとめさせたりする。
- ・問題を正確に読み取り、条件を落とさずに適切な言葉を使って書く力をつける。
- 理科・実験結果や考察を絵や図を使って説明させたり、学習のまとめと日常生活をつなげより体感的に理解させたりする学習を多く取り入れる。
- ・用語を使って、予想、結果、まとめ、理由を書けるようにする。

〔2〕授業以外での取り組み

- ・朝学習、パワーアップタイム、ぐんぐん教室、家庭学習で漢字・語彙・計算力をつける。
- ・家庭と連携して家庭学習強化週間を設定し、「学年×10分」の学習時間の定着及び内容の充実を図る。